

## 令和6年度 和歌山大学教職大学院運営協議会（第1回）概要

**日時** 令和6年9月24日（木）15:00～16:20  
**場所** 和歌山大学東3号館 中505 第2会議室（和歌山市栄谷930）  
**出席** 深野泰宏 和歌山県教育委員会学校教育局長）、宮本直周 和歌山市教育委員会学校教育  
部学校教育課副課長（同学校教育部長代理）、藪中秀樹 新宮市立神倉小学校長、岸  
田正幸 和歌山信愛大学教授、田川裕之 教育学研究科長／教授、豊田充崇 教職開発  
専攻長／教授（授業実践力向上コース長）、宮橋小百合 准教授（学校改善マネジメン  
トコース長代理）、山崎由可里 教授（特別支援教育コース長）  
陪席：寺川剛央 教育学部教授、高橋正美 学務課学部等支援室教育学部分室長  
**欠席** 木村一紀 和歌山市立伏虎義務教育学校長

### 概要

#### （1）研究科長挨拶

#### （2）出席者紹介

#### （3）報 告

##### ①本年度の運営体制等について

豊田専攻長より、資料1のとおり説明があった。

##### ②教職大学院カリキュラム

豊田専攻長及び宮橋准教授より、パンフレットに基づきカリキュラムの説明があった。

##### ③本年度の入学状況及び募集状況について

豊田専攻長より、資料2のとおり説明があった。

現職派遣については、和歌山県教育委員会や和歌山市教育委員会の協力を得て、例年どおり定員を満たし入学し、県内周辺私学からの進学希望者が増えている。

##### ④ストレートマスターの就職状況について

豊田専攻長より、資料3のとおり説明があった。

##### ⑤教員採用試験の状況について

豊田専攻長より、資料4のとおり説明があった。

##### ⑥修了生及び管理職アンケート結果について

豊田専攻長及び宮橋准教授より、資料5のとおり説明があった。

アンケート結果より、大学院で学んだことが現場で還元できるようになっていることや、配属先の学校長からの評価も高くなっていることが読み取れる。

⑦「学校実践支援ユニット」について

豊田専攻長より、資料6のとおり説明があった。

学校実践支援ユニット事業における「ブレンディッド・ラーニングによる教員研修履修証明プログラム」、「学校支援プロジェクト（田辺市・海南市）」、「ICT 出前授業」、「「小規模校実習」実施事業」等の紹介。

⑧その他報告

(1)学部教員採用試験推薦試験合格者の教職大学院の授業について

豊田専攻長、田川研究科長及び寺川教授（陪席）により、資料7のとおり説明があった。

R 5年度に学部3年次で5名の合格者を輩出し、4年次になる今年度において、教職大学院の方で学生の指導を担当している。具体的には、教職大学院の授業科目を聴講し、和歌山県教育委員会より紹介いただいた学校に訪問や参観を行いカンファレンスを実施している。

(2)教員養成評価機構による認証評価の結果

豊田専攻長及び宮橋准教授より、資料8のとおり説明があった。

R 6年度に受けた認証評価では、無事に全ての評価基準を満たし、認定された。

認証評価を受けたR 5年度において定員100%を満たしたことや、県北部と県南部を含めた県全体での連携関係の構築ができていたことがポイントではないか。

(3)生徒指導学会について

豊田専攻長より説明があった。

和歌山県教育委員会が県内の教員を集めて開催。運営スタッフやタイムキーパーなどを教職大学院の学生が担当することについて要請があり、全面的に協力することになった。

(4) 質疑応答／協議

- ・教職大学院で学ぶ現職院生の年代、校種が様々。1年間の学修、2年目の現任校での現場実習でいかに学びを還元できるかと期待している。戻って直ぐにということではなく、長いスパンで生かし、学び続けて欲しいという願いがある。学校の課題を教職大学院でサポートしていただき、また次の循環で、教職大学院に行けば様々な学校現場の課題も一緒に考えてくれた、職員が色々学んでくれたという思いで、周りの学校長や市町村の教育委員会も次も送り出そうという好循環が生じると考えている。修了生のアンケート結果から、学生が苦労している部分については、1年目の初任者や2年目の教員、学校現場が感じる課題と一致しているところがある。学校現場を見る時間を確保して現場に出て欲しい。〔深野委員〕
- ・現職教員が毎年お世話になっている。学校現場ではある程度力がある教員が進学を希望するので、抜けた1年間は現場の負担感はある。しかし、修了生は現場に戻ると頑張っている。

今は小学校が多く、まだ送り出す中学校の現職教員が少ないため、中学校の教員にも多く進学してもらいたい。〔宮本氏（前北委員代理）〕

- ・定員 30 名を満たすという課題について、現職教員は教職員定数のこともあり、これ以上増やすのは難しい。ストレートマスターをどう確保するのかという視点が重要であり、大きな課題である。昨今の就職事情からすれば難しいことではあるが、内部進学者と外部からの進学者についてどういう割合で増やしていくのか、外部進学者に対してどのように広報活動を行うのか、検討が必要。〔岸本委員〕
- ・本校では、学校改善マネジメントコース 2 年目の職員が 1 名進学中で、スペシャリストコース希望者が 1 名いる。学校現場では苦しい状況ではあるが、今後の学校への還元のためにも送り出してやりたい気持ちがある。和歌山県の大学推薦に合格した 5 名の学生について、自分の学校に勤務となれば、どのようになるのかという期待感が高く、率直に興味を湧いている。その一方で、5 名の学生らにかかるプレッシャーも気がかりである。〔藪中委員〕

(5) 閉会（次回日程について）

次回は令和 7 年 3 月に予定。